

平成27年度 研究・調査企画会議 事前・中間評価部会（第8回）
議事概要

1 日時：平成28年2月17日（水）13：00～16：15

2 場所：食品安全委員会中会議室

3 出席者（8名）

圓藤 陽子（（独）労働者健康福祉機構関西労災病院産業中毒センター長）

尾崎 博（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部部長）

川村 孝（京都大学環境安全保健機構副機構長兼健康科学センター長）

佐藤 洋（食品安全委員会 委員長）

山添 康（食品安全委員会 委員長代理）

◎熊谷 進（食品安全委員会 委員）

吉田 緑（食品安全委員会 委員）

（◎：座長）

その他、事務局から姫田事務局長ほか10名が出席

4 議事概要

（1）平成28年度食品健康影響評価技術研究の新規対象課題（案）について

○ 前々回の事前・中間評価部会で事前評価（ヒアリング審査）を実施した9課題について、同部会委員の評価コメントや審議を踏まえて事務局が取りまとめた評価所見（案）を提示し、審議を行った。

○ その結果、評価所見（案）の文言を一部修正し、事前・中間評価部会委員が再度確認した上で食品安全委員会に報告することとなった。

（2）平成27年度食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果（案）について

○ 前回の事前・中間評価部会で中間評価（ヒアリング審査）を実施した以下の7課題について、同部会委員の評価コメントや審議を踏まえて事務局が取りまとめた評価所見（案）を提示し、審議を行った。

1301：ヒト型遺伝子改変マウスを用いた非定型BSEの人に対する感染リスクの定量的評価（松浦裕一（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所））

1501：農薬の毒性評価における「毒性プロファイル」と「毒性発現量」の種差を考慮した毒性試験の新たな段階的評価手法の提言—イヌ慢性毒性試験とマウス発がん性試験の必要性について—（小野敦（国立医薬品食品

衛生研究所))

1503 : 食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検討および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究(祖父江友孝(大阪大学))

1504 : 家畜とヒトとの間における薬剤耐性菌の循環に関する分子疫学および時空間比較ゲノム解析(荒川宜親(名古屋大学))

1505 : 食品に対する乳児期のアレルギー性反応獲得メカニズムと発症リスク評価(木戸博(徳島大学))

1506 : 食品ごとの「IgE 抗体の作らせやすさ」を測定する系の樹立に関する研究(斎藤博久(国立研究開発法人国立成育医療研究センター))

1507 : 食品由来のアクリルアミド摂取量の推定に関する研究(河原純子(国立研究開発法人国立環境研究所))

- その結果、評価所見(案)の文言を一部修正し、事前・中間評価部会委員が再度確認した上で食品安全委員会に報告することとなった。

(3) 平成28年度食品安全確保総合調査課題(案)について

- 前回の事前・中間評価部会で修正意見のあった調査課題の仕様書(案)について、事務局から修文案を提示し、再度審議を行った。
- その結果、修文案について了承され、そのほかの調査課題も含めて、食品安全委員会に報告[※]した後に、事務局にて入札手続を進めることとなった。(※調査課題名及び調査目的のみ報告)

(4) その他

- 議題(1)及び(2)で審議した次年度に実施する継続及び新規採択研究課題の研究費の配分額(案)について事務局から提示し、審議を行った。
- その結果、事務局が当該課題の主任研究者と調整するなどにより、配分額について再度精査し、事前・中間評価部会委員に意見照会した上で配分額を決定することとなった。

—以上—

(注: 本会議は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。)